

<困っていること>

- ・ 妊孕性温存施設に初診で来院した場合、女性の場合は診察に1日かかることもある。体調が思わしくない方もいるので、先に看護師が問診をとって希望を確認している施設もあるが、診察後も迷われる場合もある。その場合は1日で診察が終了しない場合もある。

癌治療側も妊孕性専門のカウンセリングを依頼することが多いが、科によっては医師からの説明にばらつきがあることがある。

- ・ 癌治療側からの紹介状内容の情報が不足していることがあり、妊孕性治療側が戸惑ってしまったり、判断が難しい場合がある。
- ・ 更新料が無料であったり、対面せずに更新が可能な場合、先のことをあまり考えられないこともある。対面や、有料にする方が責任を持って更新ができるのではないかな。
- ・ 15年ぐらい前に化学療法をした。その後不妊になっているかもしれないがご本人知らないまま。本人にはどのタイミングで伝えるべきか困っている。
- ・ 思春期の男子、セクシャリティについて吐露あり。男子と男性の医師と二人で面談。時には親と別々で話すことも重要になってくる。
- ・ J O F Rの登録が最後までできていないことがあるので最後までできているのか確認が必要である。

- ・小児の意思決定について悩むことがある。

→6歳ぐらいから意思決定はできる。医療者側が紙芝居やおもちゃを使用して子供としっかり向き合い対話をするのが大切。

- ・乳がん患者などホルモン療法後の高齢で妊娠するリスクをどの段階でだれがどのように説明するのか考えていかないといけない。

- ・癌治療側で、乳がんや血液内科では流れが決まっているがそれ以外の科では認識がうすい医師もいるのでそれをどうするのが今後も課題である。

<スタッフ教育に関して>

- ・後輩育成のためにできることとして、マニュアルを作成している。
- ・心理面に関して、チーム内(3～4年目以上)で勉強会を行う。
- ・スタッフ間でよくコミュニケーションをとっている。(生死に関わる話も含む)
- ・癌治療側病院にて妊孕性の知識がない看護師が興味を持ってがん専門看護師に相談したら教えてくれた。今後も若い看護師のやる気は大切に育てていきたい。